



2022年12月期第3四半期 決算説明会資料

2022年11月9日

ローランド株式会社



『SPD-SX PRO』

プロのステージでの高度な要求に応える、サンプリング・パッドのフラグシップモデル

今回発表のポイント

- 通期業績予想は**上方修正した計画を維持**
 - Q3(7月-9月)は、中国ロックダウン影響が継続、欧州の需要軟化も見られた
 - 最大需要期であるQ4に向け増産進む。受注残額も改善傾向が継続
 - Q4(10月-12月)は、販売の最大化とコストの見直しを実行
- 価格適正化効果により、実質ベースでは**コスト上昇分のカバーが完了**
- 中長期でのドラム事業の成長に向け、**Drum Workshop社の買収を実施**

1 2022年12月期 第3四半期 決算概要

2 2022年12月期 通期業績予想

3 補足資料

1

2022年12月期 第3四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期業績予想

3

補足資料

<留意事項：会計処理の変更について>

- 2022年12月期は「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日改正、2021年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から新たに適用）を適用し、当該基準に基づいた実績および予想となっています
- このため、当該基準適用前の2021年12月期の実績値に対する増減率は記載していません
- 当社においては「売上割引（売上高の約1%）」が、「営業外費用」から「売上控除」に変更となります
- 結果、**見た目上の売上高・営業利益・営業利益率が減少しますが、キャッシュフロー・純利益に影響はありません**
- ご理解の一助のため、2021年12月期と同様の基準で算出した前期比較を記載しております

第3四半期 決算のポイント

売上高

646.2億円

前期比¹：+7.6%

- 最大市場である**北米の好調は継続**
- 7-9月は、欧州を中心に**低価格帯で需要が軟化**
- 円安が寄与し、**前期比増収**

営業利益

62.8億円

前期比¹：-28.2%

- 価格適正化により、7-9月は**コロナ前の売上総利益率を回復**
(為替および会計基準変更影響除く)
- 一方、販売減／為替影響／Drum Workshop社買収による一時費用等により**前期比減益**

四半期純利益²

50.7億円

前期比¹：-34.4%

- 大きな特別損益の発生はなし

¹ 前期比は、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

² 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

第3四半期 連結業績

- 為替影響は売上高には増加に寄与、一方営業利益額には減少に作用
- 前年同等の為替および会計基準変更前ベースでの営業利益率は12.8%

(単位: 百万円)	2021年12月期 Q3 ¹		2022年12月期 Q3 ²				
	実績	売上比	新基準		旧基準 (前期同様の会計基準)		
			実績	売上比	実績	売上比	前期比
売上高	60,668	100.0%	64,622	100.0%	65,277	100.0%	+7.6%
売上総利益	28,130	46.4%	26,515	41.0%	27,171	41.6%	-3.4%
販管費	18,465	30.4%	20,227	31.3%	20,227	31.0%	+9.5%
営業利益	9,664	15.9%	6,288	9.7%	6,943	10.6%	-28.2%
四半期純利益 ³	7,741	12.8%	5,075	7.9%	5,075	7.8%	-34.4%

前年同等の為替
の場合12.8%

1 2021年12月期3Qの為替レート 米ドル/円：108.50、ユーロ/円：129.87、ユーロ/米ドル：1.197

2 2022年12月期3Qの為替レート 米ドル/円：128.06、ユーロ/円：136.01、ユーロ/米ドル：1.062

3 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を指す

4 「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

為替影響 (対前期比⁴)

売上	+64億円
営業利益	-6億円

第3四半期 連結営業利益

増減 (対前期比)

主な要因

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響
- 会計基準変更影響

(億円)

販売数量変化

- ✓ 中国ロックダウン
- ✓ 欧州需要軟化
- ✓ 2020/Q4-2021/Q1の在庫政策
- ✓ ドラム新製品の発売後ろ倒し (Q4へ)

売価/原価変動

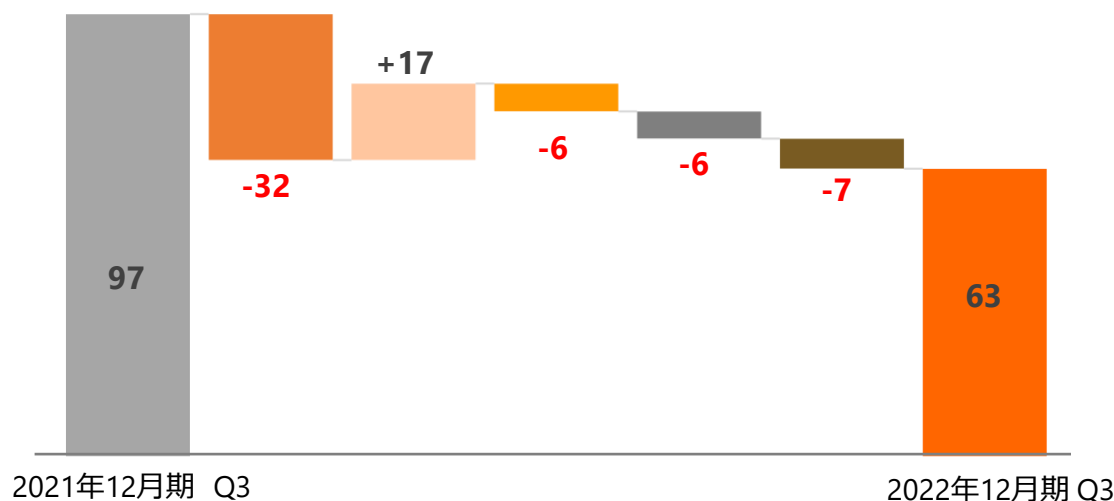
- ✓ 原材料、海上輸送費の高騰
- ✓ 価格適正化効果

販管費増減

- ✓ Drum Workshop社買収関連費用
- ✓ 旅費交通費の増加

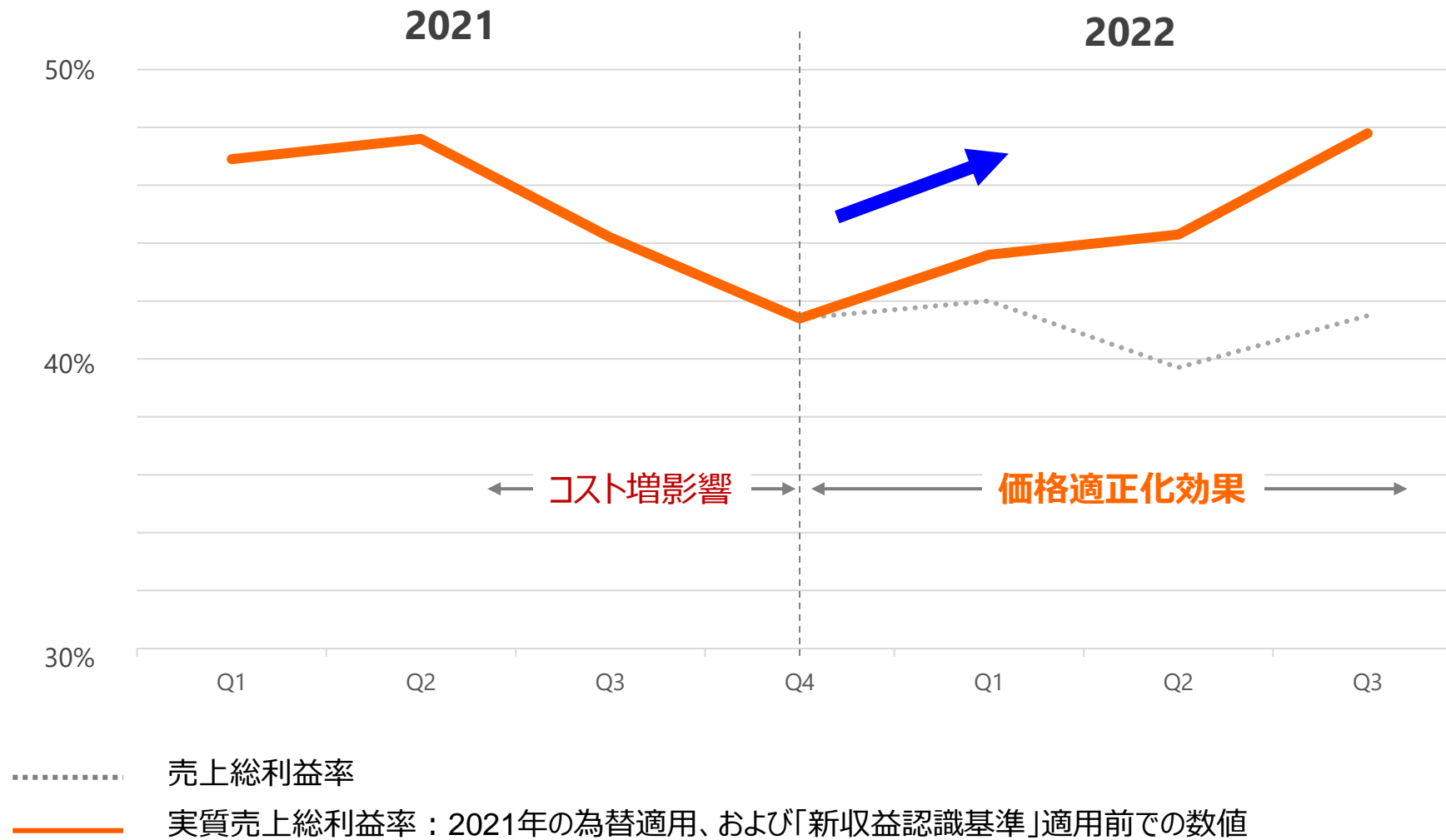
為替影響

- ✓ EUR/USDにおけるEUR安および、急激な為替変動による未実現利益消去額 (-10億円) の増加



実質的な売上総利益率は改善が継続

- 価格適正化効果により、今期よりリカバリーが継続。実質ベースではコスト上昇分のカバーが完了



第3四半期 製品別売上高

単位：百万円	2021年12月期 Q3	2022年12月期 Q3			コメント
	実績	実績	前期比 ¹	実質 前期比 ²	
鍵盤楽器	18,584	20,820	+13.1%	+2.2%	全体として電子ピアノの需要はコロナ前より高いレベル。低価格帯については、特に欧州において物価高騰などにより需要減少傾向。
管打楽器	14,524	13,953	-3.0%	-13.1%	電子ドラムは、中国ロックダウンおよび、一部新製品の発売遅延等の影響あり。電子管楽器は市場拡大は継続するも、中国ロックダウンおよび供給不足が影響。
ギター関連機器	14,782	16,108	+10.2%	-0.8%	ギターエフェクターは、ルーパーシリーズやマルチ・エフェクターの新製品等が貢献。楽器用アンプは、中国でドラム用アンプ等が苦戦したが、ギター関連機器全体としては堅調な販売が継続。
クリエイション関連機器 & サービス	7,706	8,793	+15.4%	+4.1%	コンパクトタイプのステージピアノや今期発売したシンセサイザーが貢献。ダンス&DJ関連製品では、前期発売したサンプラー等が好調。
映像音響機器	3,127	2,950	-4.7%	-12.4%	映像関連機器では、イベント需要は回復傾向ながら、パーツ不足の影響により供給苦戦。V-MODAは新製品の販売が想定を下回る。
その他	1,943	1,996	+3.6%	-5.0%	楽器関連アクセサリ(ケース、ケーブル等)は概ね計画通りの販売。3rd partyブランドの取り扱い減少。
合計	60,668	64,622	+7.6%	-2.9%	

1 「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

2 為替影響および「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

第3四半期 地域別売上高

単位：百万円	2021年 12月期Q3	2022年12月期 Q3			コメント
	実績	実績	前期比 ¹	実質 前期比 ²	
日本	7,399	6,917	-6.5%	-6.5%	電子ピアノの主力製品の供給が回復。需要は概ね堅調なものの、7-9月はコロナ感染増加により、一部の店舗販売に影響。
北米	19,809	23,214	+19.1%	+1.9%	強い楽器需要を背景に、鍵盤楽器、ギター関連製品を中心に好調な販売が継続。米国向け在庫アロケーションも寄与。
欧州	19,061	18,160	-3.5%	-7.7%	インフレ進行、経済先行き不安から、エントリー価格帯の商品を中心に販売が停滞。マーケット全体で供給の回復もあり、市場在庫も高水準。
中国	6,092	6,406	+5.2%	-9.0%	ゼロ・コロナ政策による都市ロック・ダウンにより市場全体がトーンダウン。教育市場にも影響。
その他	8,306	9,922	+19.8%	+4.2%	電子ドラム、電子ピアノが好調。アジア諸国の行動規制緩和に伴い、東南アジア、インドのプロマーケット需要も回復。
合計	60,668	64,622	+7.6%	-2.9%	

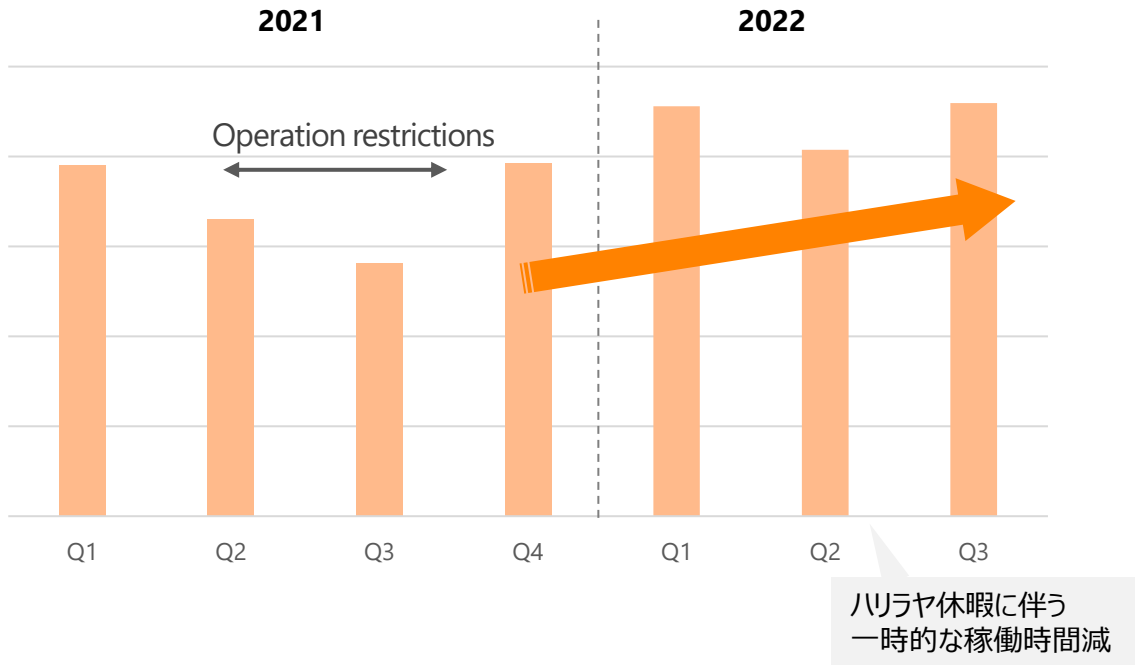
1 「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

2 為替影響および「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

最大需要期であるQ4に向け増産進む。受注残額も改善傾向が継続

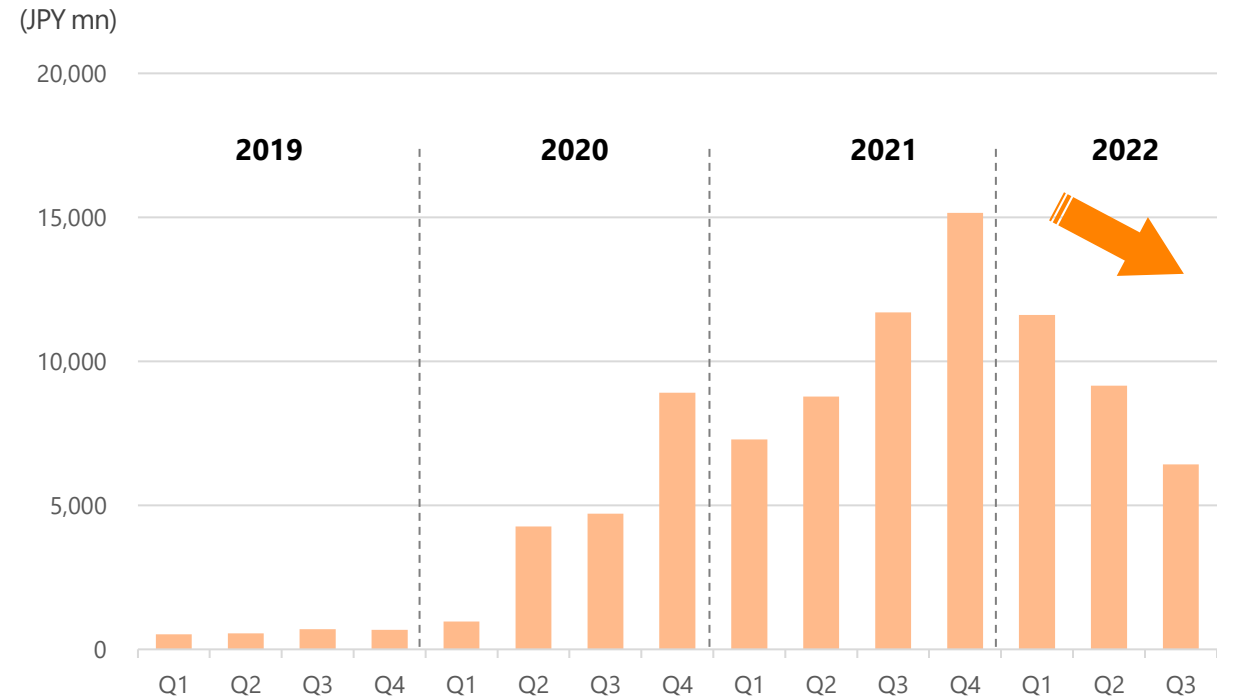
マレーシア工場生産高推移

- 調達、生産共に最悪期は脱し、**改善傾向**
- Q4の商戦期に向け**作り込みを実施**



受注残額推移

- 2021年Q4以降の生産増加に伴い**受注残額は順調に改善**
- 一部製品群をのぞき、市場の在庫状況も改善

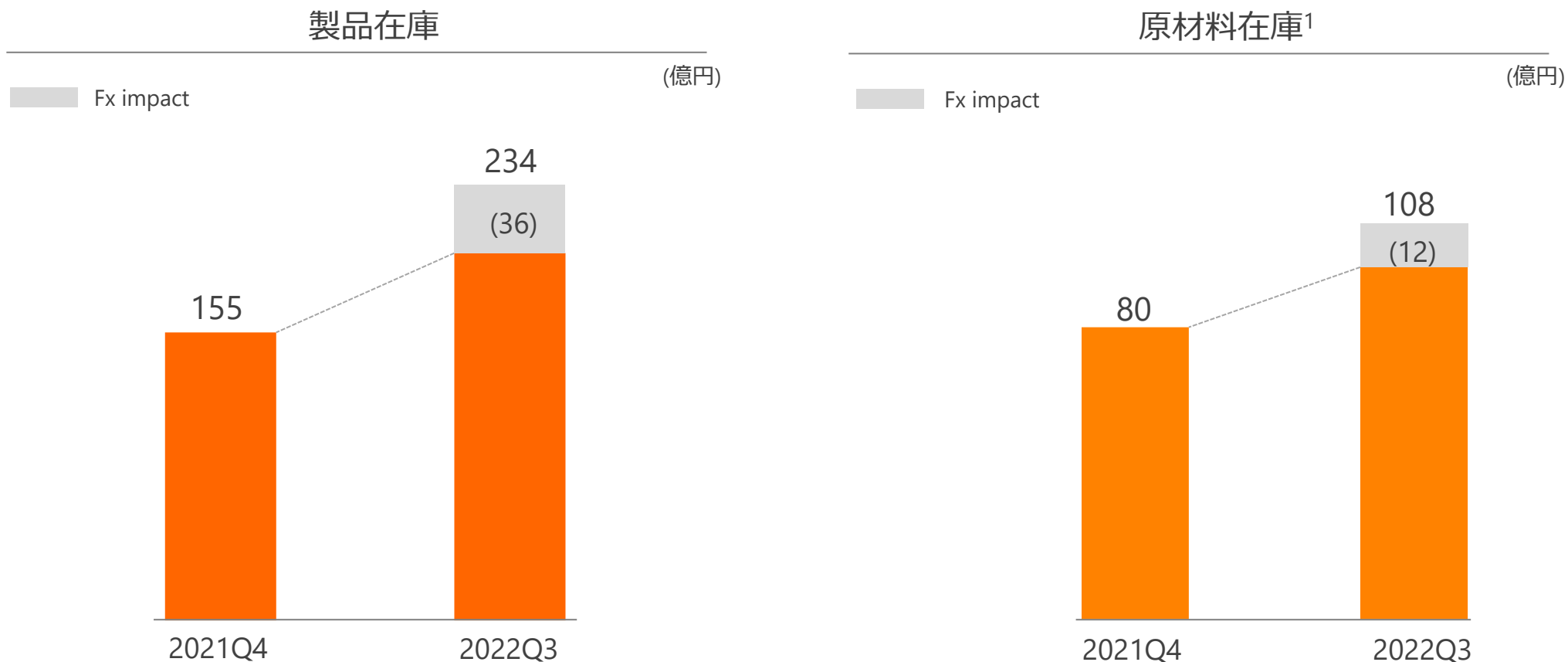


在庫状況

- 棚卸資産は2021年Q4末比+106億円（内、為替影響+51億円）

主な在庫の状況

- ✓ 製品在庫：生産は回復。Q4の販売最大化に向けて、**製品在庫を確保**
- ✓ 原材料在庫：半導体などの、一部の制約の強い部品を除き増加。販売機会損失最小化のため積上げ



¹ 原材料在庫には貯蔵品(販促物等)を含む

Drum Workshop社の株式取得（9/12発表、10/3株式取得完了）

※詳細は、9/12開示資料ご参照

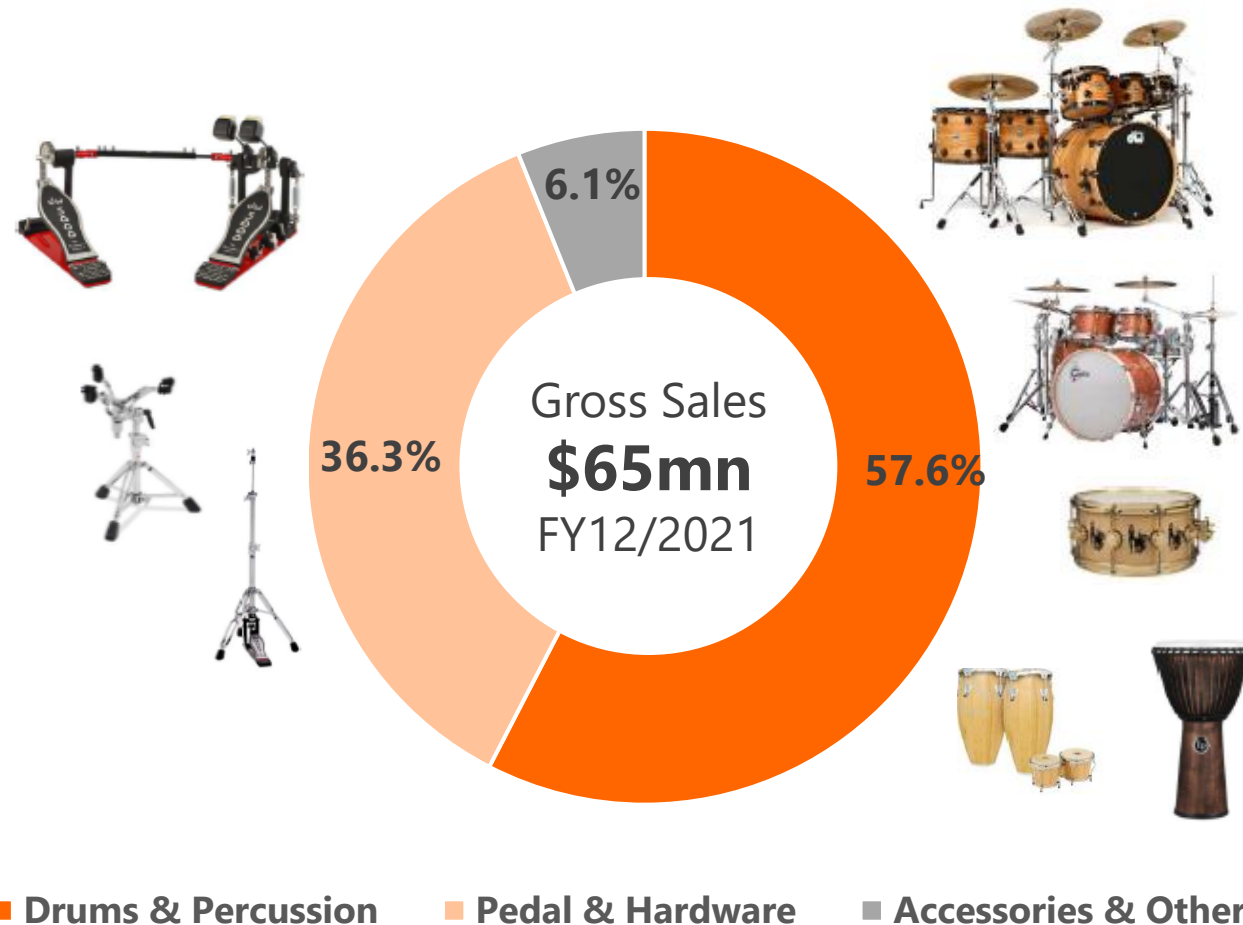
会社概要

主なブランド



- 事業：世界的なアコースティックドラムおよびハードウェア（ドラムスタンド、ペダル、スローン等）製造販売会社
- アコースティックドラム市場シェア¹：米国1位、世界3位
- 創業：1972年
- 従業員数：約200名
- 製造拠点：（自社）米国、（協力工場）中国、台湾、タイ
- 販売地域：世界60か国以上

売上構成比



バリューチェーン全体を通して期待されるシナジー効果



Synergies



1. R&D

➤ **Game-Changing Technology** の獲得

2. Production

➤ **DWの米国工場の活用：**
プレミアム&カスタマイズ製品生産

3. Brand Power

➤ **Roland & DW 両社のブランドパワーの活用**

4. Sales

➤ **ローランドのグローバル販売網を活用し、**
DWの米国外の売上高を最大化

5. Marketing

➤ **グローバルデジタルマーケティングチーム統合**
によるダイレクトセール強化

6. Roland Cloud

➤ **DWブランドの音源コンテンツをRoland Cloudで**
提供、音楽クリエイターの困り込みを図る

1

2022年12月期 第3四半期 決算概要

2

2022年12月期 通期業績予想

3

補足資料

通期 連結業績 (2022年8月8日開示)

- 為替影響を除いたベースでも前期比増収・増益
- Drum Workshop社の株式取得により、同社をQ4より連結予定
- 今期の当社連結業績予想に与える影響は軽微と見込まれるため、業績予想は修正せず（売上は若干増加、利益影響はほぼ無い見込み）

(単位: 百万円)	2021年12月期 ¹		2022年12月期 ²				
	実績	売上比	新基準		旧基準 (前期同様の会計基準)		
			計画	売上比	計画	売上比	前期比
売上高	80,032	100.0%	92,400	100.0%	93,300	100.0%	+16.6%
売上総利益	36,137	45.2%	40,200	43.5%	41,100	44.1%	+13.7%
販管費	25,043	31.3%	27,800	30.1%	27,800	29.8%	+11.0%
営業利益	11,093	13.9%	12,400	13.4%	13,300	14.3%	+19.9%
当期純利益 ³	8,586	10.7%	9,800	10.6%	9,800	10.5%	+14.1%

1 2021年12月期の為替レート 米ドル/円：109.81、ユーロ/円：129.93、ユーロ/米ドル：1.183

2 2022年12月期の為替レート 米ドル/円：126.45、ユーロ/円：135.65、ユーロ/米ドル：1.073

3 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す

4 「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

為替影響 (対前期比⁴)

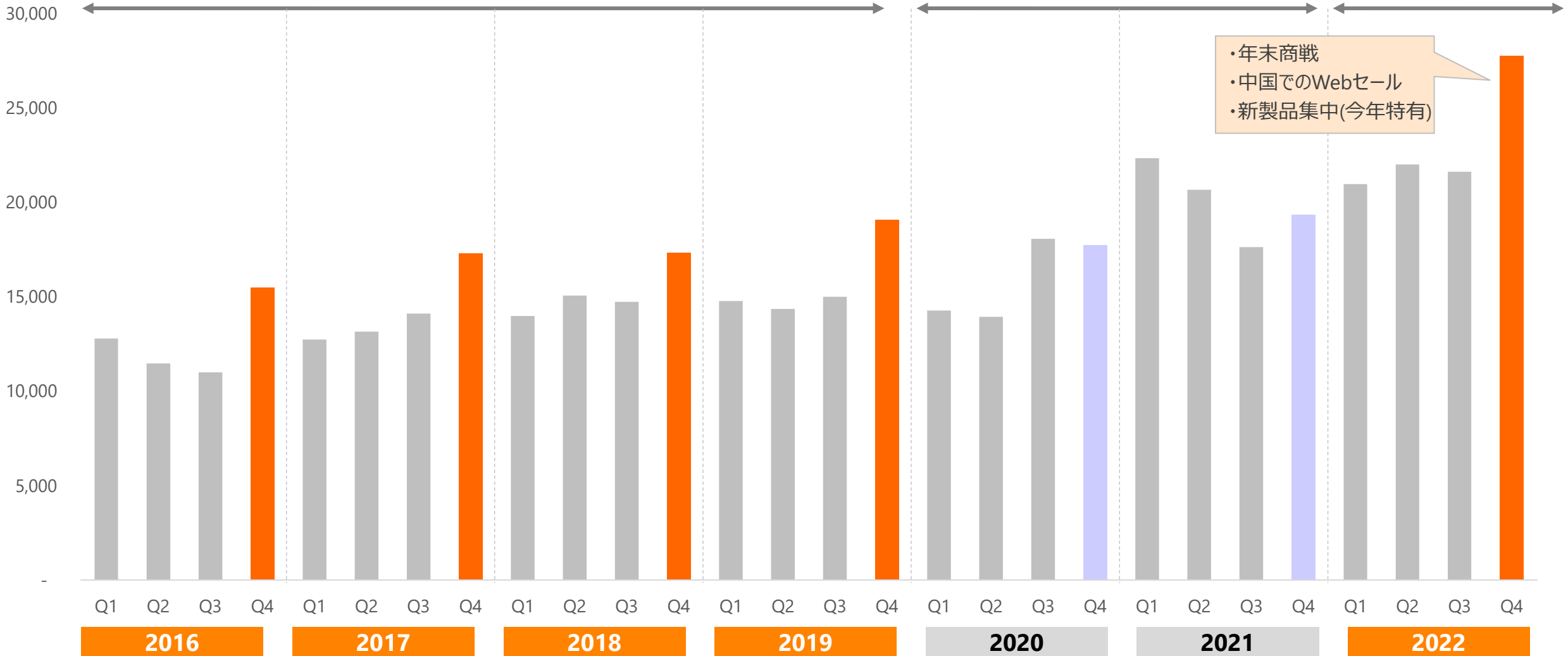
売上	+80億円
営業利益	+5億円

当期は、コロナ前の季節傾向への回帰を想定

①コロナ前：
販売はQ4が最も多い（通常の季節傾向）

②コロナ禍：
生産制限による乱れ

③コロナ後：
正常化を想定



・年末商戦
・中国でのWebセール
・新製品集中(今年特有)

商戦期の販売、利益の最大化に向け施策を実行中

Q4取り組み	進捗	状況と見通し
新製品ローンチ	✓	<ul style="list-style-type: none">・発売遅延もあり、今期は新製品貢献の約50%がQ4に集中・来期以降も需要を生み出す新製品を継続リリース予定
受注残消化	✓	<ul style="list-style-type: none">・輸送リードタイムは短縮傾向 (ピーク時の3-5割減、ただしコロナ前よりは2-3割増)・商戦期に間に合わせるため、一部Air輸送も実施
環境変化への対応	✓	<ul style="list-style-type: none">・欧州を中心とした低価格帯の需要減速に伴い、 一部製品の値上げを延期・利益予想への影響に対し、経費の執行見直しを計画

為替影響について

- 現在の急速なドル高の進行は、売上に大きく寄与する一方で、利益への貢献は限定的
- 結果、**見た目の利益率にマイナス影響**

2021年実績レート

USD/JPY : 109.81
 EUR/JPY : 129.93
 EUR/USD : 1.183

2022年Q3累計期間 実績レート

USD/JPY : 128.06
 EUR/JPY : 136.01
 EUR/USD : 1.062

為替感応度

<売上影響>

主な通貨ペア	影響額（年額）	
USD/JPY	2.6億円	(1円当たりの影響額。円安が有利)
EUR/JPY	1.8億円	(1円当たりの影響額。円安が有利)

<営業利益影響>

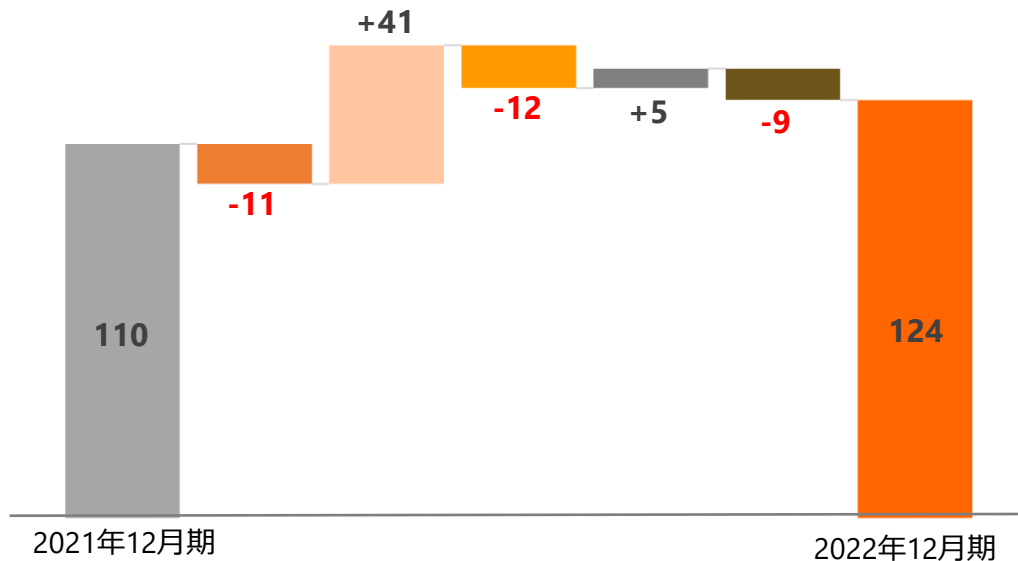
主な通貨ペア	影響額（年額）	
USD/JPY	1億円	(1円当たりの影響額。円安が有利)
EUR/JPY	0.3億円	(1円当たりの影響額。円安が有利)
EUR/USD	1.3億円	(1セント当たりの影響額。EUR高が有利)

通期 連結営業利益予想

2022年8月8日開示時点の想定 (対前期比)

(億円)

- 販売数量変化
- 売価/原価変動
- 販管費増減
- 為替影響
- 会計基準変更影響



8/8時点からの環境変化

- **販売数量**
 - ✓ 欧州需要軟化、中国回復遅れ (-)
 - ✓ 受注残出荷の加速 (+)
- **売価/原価変動**
 - ✓ 低価格帯需要軟化に伴う一部値上げの延期 (-)
 - ✓ コストの減少 (+)
- **販管費**
 - ✓ 経費執行のコントロール (+)
- **為替影響**
 - ✓ USD高の急速な進行による原価増 (-)

来期以降の見通し

- 不透明な環境下においても、持続的な成長を目指す

環境

Demand



- 世界的に**景気後退懸念**は増加
- 低価格帯を中心に、一時的に**需要が減速**
- 一方、**中高価格帯の需要は底堅い**
- 楽器演奏をやってみたいという**膨大なTAMは不変**

Cost



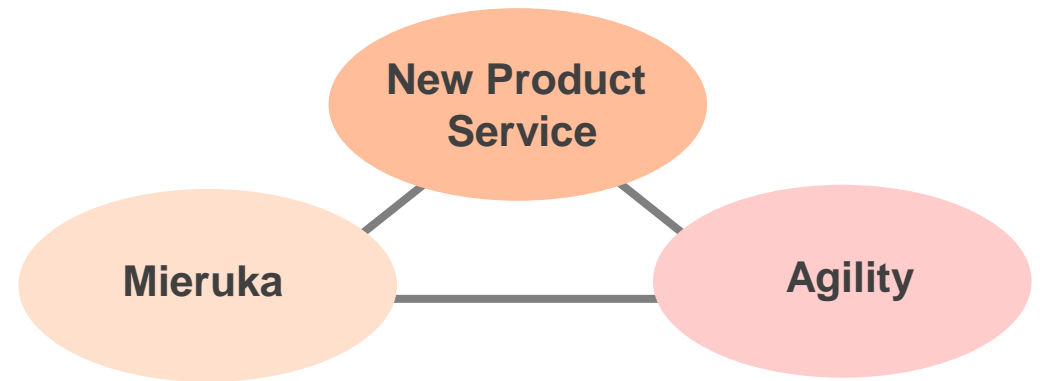
- 前期比では**コストプレッシャーは弱まる**

SCM



- 輸送リードタイムは**減少傾向**
- 調達状況は全体的に改善も**依然予測困難**

当社のアプローチ



- 需要を生み出す**Game Changer**製品・サービス
- Drum Workshopとの**シナジー**
- 未開拓市場（製品、地域）での**シェア向上**
- **デジタル・マーケティング**を通じた顧客認知の向上

＜機敏な意思決定と、それを支える“見える化”の強化＞

- 規律ある**コスト管理**
- ユーザーとの**Direct Communication**の進化
- 地域需要に合わせた**フレキシブルな供給アロケーション**

1

2021年12月期 第3四半期 決算概要

2

2021年12月期 通期 業績予想

3

補足資料

Roland Cloudビジネスの進捗

- これから音楽を始めたい**ポテンシャルカスタマー**へも、音楽を楽しむためのトータルソリューションを提供
- 音楽を楽しむまでの様々な「壁」を取り除く**ソリューションプロバイダー**への転換を目指す

中長期クラウドサービスのビジョン



サブスク
利用者数

2021年12月末時点

約**18,400**

2022年9月末実績

約**23,100**

- 顧客拡大に向け、様々な楽器へサービスを拡大中
 - ✓ ドラムアーティストによるドラムサウンドコンテンツの提供
 - ✓ 「Roland Piano App」より、ピアノレッスン用のコンテンツの提供を開始

トピックス①：ローランド初の直営店舗『ローランドストア』の第1号店をロンドンにオープン

- 英国ロンドンの歴史ある楽器街デンマークストリートに、2022年8月にグランドオープン
- 今後、世界各地における音楽ビジネスの中心地へ出店を計画
- お客様との積極的なコミュニケーションを行う場を創造していく

外観



店内の様子



トピックス②：創業50年を記念して浜松市立小学校97校にデジタルピアノを寄贈

- ローランドでは、社会全体のサステナビリティ向上に貢献する方針のもと「教育・芸術活動への支援」を重要な活動テーマとして掲げています
- これは、次世代のミュージシャンやクリエイターの育成のみならず、教育機関や慈善団体への支援・協賛を行い、音楽を通じた心の育成に貢献することで、未来に向けた音楽文化の発展と豊かな社会の実現を目指すものです

デジタルピアノ『F701』（ホワイト）

製品ページ：<https://www.roland.com/jp/products/f701/>



トピックス③：ローランド創業50年を記念したコンセプト・モデルを特設ウェブページで公開

- 当社の電子ドラム、電子ピアノ、シンセサイザーの歴史とともに、創業50年を記念して製作したそれぞれのコンセプト・モデルを紹介する、特設ウェブページを公開しました



ローランド創業50年記念コンセプト・モデル
(左から電子ピアノ、シンセサイザー、電子ドラム)

<https://articles.roland.com/ja/the-future-never-ends-the-history-of-roland-pianos/>
<https://articles.roland.com/ja/jupiter-king-of-the-polysynths/>
<https://articles.roland.com/ja/redefining-rhythm-a-history-of-roland-drums/>

通期 製品別売上高（2022年8月8日開示）

単位：百万円	2021年12月期		2022年12月期		
	実績	構成比	予想	前期比 ¹	実質 ² 前期比
鍵盤楽器	24,792	31.0%	30,900	+25.4%	+15.0%
管打楽器	19,053	23.8%	19,800	+5.0%	-4.4%
ギター関連機器	19,093	23.9%	22,400	+18.4%	+7.8%
クリエイション関連 機器&サービス	10,122	12.6%	12,100	+21.5%	+10.7%
映像音響機器	4,282	5.3%	4,400	+5.1%	-2.8%
その他	2,689	3.4%	2,800	+4.1%	-3.0%
合計	80,032	100.0%	92,400	+16.6%	+6.6%

1 「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

2 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

通期 地域別売上高（2022年8月8日開示）

単位：百万円	2021年12月期		2022年12月期		
	実績	構成比	予想	前期比 ¹	実質 ² 前期比
日本	9,666	12.1%	9,800	+1.4%	+1.8%
北米	25,959	32.4%	31,300	+22.5%	+6.9%
欧州	24,958	31.2%	27,600	+12.2%	+7.1%
中国	8,673	10.8%	9,700	+11.8%	-0.8%
その他	10,775	13.5%	14,000	+29.9%	+14.8%
合計	80,032	100.0%	92,400	+16.6%	+6.6%

1 「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

2 為替影響および、「収益認識に関する会計基準」の適用影響を除外した比較

主要連結財務数値(PL/指標/BS)

(単位: 百万円)	2021年12月期 3Q	2022年12月期 3Q	(単位: 百万円)	2021年12月期 期末	2022年12月期 3Q末
売上高	60,668	64,622	現金及び預金	8,781	8,201
売上原価	32,538	38,106	受取手形及び売掛金	7,444	11,746
売上総利益	28,130	26,515	棚卸資産合計	25,240	35,909
販売費及び一般管理費	18,465	20,227	その他流動資産	1,156	1,550
営業利益	9,664	6,288	流動資産合計	42,623	57,407
営業外損益	-728	-415	有形固定資産合計	5,857	6,255
経常利益	8,936	5,872	のれん	20	21
特別損益	218	249	その他固定資産	4,305	4,910
税金等調整前四半期純利益	9,154	6,122	固定資産合計	10,183	11,187
法人税等合計	1,411	1,040	資産合計	52,807	68,594
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,741	5,075	支払手形及び買掛金	6,391	7,875
EBITDA	10,862	7,545	短期借入金	-	9,176
D/レシオ	0.3x	0.6x	1年内返済予定の長期借入金	1,252	1,252
自己資本比率	51.5%	46.8%	その他流動負債	8,389	7,784
Debt / EBITDA ¹	0.5x	1.8x	長期借入金	5,822	7,883
ROE ¹	41.4%	21.3%	その他固定負債	2,295	2,235
			負債合計	24,150	36,206
			純資産合計	28,656	32,387
			負債純資産合計	52,807	68,594

1 Debt/EBITDAおよびROEは年換算値

将来見通しに関する注意事項

本資料はローランド株式会社の「将来予想に関する記述に該当する情報」が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、実際の業績と大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、当社の事業を取り巻く経済情勢、需要動向、為替相場の変動等が含まれます。